

県産畳表を世界へ発信 いぐさ・畳表ベンチを発送



▲八代地域農業協同組合本所で行われた発送式

5月からイタリアのミラノ市で開催される「2015年ミラノ国際博覧会」で、和の食と文化の紹介を行う日本館のイベント広場に、縦50cm横150cmの「いぐさ・畳表ベンチ」18脚を設置します。

その発送式が2月19日に行われ、主催の熊本県いぐさ・畳表活性化連絡協議会をはじめ、県や市、氷川町、八代地域農業協同組合の関係者など約50人が出席。同協議会の田島幹雄会長が「い草・畳表の文化をPRし、認知度を高めたい」とあいさつしました。3脚のベンチの座面にはくまモンのデザイン畳が施され、説明プレートにはイタリア語と英語で「日本の伝統文化である畳の表面は、い草でできている」と書かれています。

同博覧会では2000万人の入場者数が想定されており、県産畳表の新たな需要の創出を目指します。

手作りの防災マップ完成 うやなぎ自主防災マップ実践的活用学習会



▲自主防災マップを作成した皆さん

2月13日、植柳公民館でうやなぎ自主防災マップ実践的活用学習会が開かれ、植柳校区の自主防災組織のリーダー約50人が参加しました。

これは、植柳校区住民自治協議会が避難場所や要援護者世帯などの情報を集めて自発的に作成した自主防災地図「うやなぎ防災マップ」の完成披露と自主防災組織の活動を推進するための学習会です。

県危機管理防災課の橋本守和さんを講師に迎え、平成26年11月22日の長野県神城断層地震において長野県白馬村で大被害にもかわらず死者0だった「白馬の奇跡」の事例を通じて「自助と共助で命を救う」ことの大切さを学びました。

植柳校区住民自治協議会の岩崎敏勝会長は「校区の自主防災マップは八代では初めてです。災害時には、要援護世帯の人たちを全員助けたい」と語りました。

木々子地区に残る七夕綱 国の無形民俗文化財に選択



▲中村市長から選択書を受け取った八代七夕綱保存会のメンバー

坂本町木々子地区に残る七夕綱が3月2日、「八代・芦北の七夕綱」として「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財（国選択無形民俗文化財）」に選択されました。これに伴い3月9日、八代七夕綱保存会のメンバー15人が市役所を訪れ、文化庁長官から交付された選択書を中村博生市長から受け取りました。

「八代・芦北の七夕綱」は集落などに綱を張り、地区の人々が製作した人形や農具などの藁細工をつくるものです。綱を張ることで集落内に悪霊や疫病が侵入するのを防ぐなどの伝承があります。かつては県南部の30カ所以上の地区で行われていましたが、今では八代市（1カ所）と芦北町（4カ所）の5カ所のみです。

同保存会会長の久保田賢一さんは「伝承していくには後継者育成は欠かせない。イベントなどを通じて七夕綱を広げていきたい」と語りました。

とんち日和のばけ日和 彦市フェスタ



▲アメを配って始まった自転車紙芝居

3月8日、ゆめタウン八代店で「第6回彦市フェスタ」が行われ、「とんち日和のばけ日和」をテーマに約70人で賑わいました。（※彦一は「彦市」の表記でも使われます）

彦一とんち話の自転車紙芝居「ひこいとんちえんまさま」や大型絵本「がめさんとひこいとんち」の読み聞かせが、お年寄りや親子連れの人気を集めました。彦一に扮して「とんち彦一の歌」を披露した高瀬久義さんは「小さい頃に少年雑誌『少年』や『ぼくら』を愛読していました。この歌もラジオ放送の主題歌でした」と懐かしそうに話しました。

彦一とんち話にまつわるプラ板工作教室に参加した八代小5年（取材時）の松永龍成くんは「球磨川に河童がいると聞いて河童のキーホルダーを作りました」と楽しそうでした。

100歳 おめでとうございます



上本 ミツエさん
(泉町)
大正4年2月18日生

現在、息子夫婦と暮らしているミツエさん。6人兄弟の長女として泉で生まれ育ち、結婚後は農業で6人の子どもを育てました。身体を動かすことが大好きで90歳頃まで畑仕事を続けていました。口癖は「自分で何でんせんばん」で、歩行が不安定になった今でも着替えなどを自分でしています。



藤田 キヨさん
(鏡町)
大正4年2月15日生

6人兄弟の4番目として生まれ育ったキヨさん。結婚後は夫とともに雑貨屋と豆腐屋を営みながら4人の子どもを育てました。音楽が大好きで趣味はカラオケ。三味線もたしなんでいたといいます。長寿の秘訣は「畑仕事など屋外での作業や体を動かすことが好きだったから」。



石田 満さん
(鏡町)
大正4年1月26日生

現在、妹と一緒に施設で暮らしている満さん。熊本市で8人兄妹の三女として生まれ育ち、結婚後は夫の仕事の都合で長い間台湾で過ごしました。その後竜北町に住み、10年前に妹と暮らすため鏡町に移り住みました。和裁が得意で、自分で着物を仕立てていたという満さんの長寿の秘訣は「どこでも歩いて行き、足腰が強いから」。

八代支援学校で塗装ボランティア



▲塗装と補修作業が行われた作業棟

ライオンズクラブ国際協会337E地区青年アカデミーのボランティアにより、老朽化した八代支援学校の作業棟に塗装を中心とした補修作業が行われました。これは、ライオンズクラブ会員が同校を視察した際、作業棟の環境改善が必要だと判断したことから取り組むことになりました。今年1月末から毎週土日の7日間を使い作業は進められ、夏季の遮熱や冬季の保温に優れた環境になり、老朽化を感じさせない美しい外観が蘇りました。作業最終日の2月22日には、完成記念セレモニーが同校で行われました。

電話お願い手帳・ふれあい速達便を贈呈



▲市長に電話お願い手帳とふれあい速達便を手渡す川嶋一敏支店長（右）

2月18日、NTT八代支店の川嶋一敏支店長らが市役所を訪れ、耳や言葉が不自由な人のための電話お願い手帳225冊とふれあい速達便50冊を贈呈しました。これは同社が社会貢献活動の一環として、毎年行っているものです。「電話お願い手帳」は外出先で電話連絡などを行う際に、要件を書いたりカードを見せたりして周囲の人に協力をお願いするときに使います。「ふれあい速達便」はフアクシミリを簡単に利用できるよう工夫された送信用紙です。川嶋支店長は「できるだけ多くの人に利用してほしい」と話しました。



赤星 ツギエさん
(葭牟田町)
大正4年3月6日生

金剛で長女として生まれ育ったツギエさん。入所している施設には、弟がデイサービスで通い、顔を合わせています。施設で歌いながら披露する手踊りは学校の先生たちが習いに来ていたほどの腕前です。長寿の秘訣は「嫌いなものがなく何でも食べるし、特に白ご飯が大好きだから」。



本田 ミスエさん
(泉町)
大正4年2月22日生

泉町で6人兄弟の長女として生まれ育ったミスエさん。同地区の人と結婚し、農業をしながら5人の子どもを育てました。手先が器用なこともあり、裁縫が得意で上手に仕上げていたといいます。足腰が強く、畑仕事に励んだというミスエさんの長寿の秘訣は「よく鼻歌を歌いながら毎日を楽しんでいたら」。



田添 コナミさん
(鏡町)
大正4年2月20日生

現在施設で暮らし、カラオケや季節の行事などを楽しんでいるコナミさん。鏡町の文政で6人兄弟の次女として生まれ育ち、小さな雑貨店を営みながら4人の子どもを育てました。手先が器用で、干し柿作りや大根の皮むきなどの家事作業が得意というコナミさんの長寿の秘訣は「6年程前まで自分のお店に出ていること」。



八代サミット



▲パネリストが独自の着眼点を披露

3月1日、やつしろハーモニーホールで「八代サミット『ユネスコ無形文化遺産登録』提案中チャンス到来！活かせるか？八代 私ならこの一手」が開催され、約500人の観客が出演者の意見発表に耳を傾けました。

小野泰輔副知事ははじめ、5人のパネリストは「地域資源として活かして欲しい」「妙見祭には受け継がれてきた物語がいっぱい詰まっている」「伝統芸能伝承館を新市庁舎と一緒に考えて欲しい」「人吉球磨地域など県南地域での協力体制の確立が重要」など活発な議論を交わしました。

八代地域協議会情報交換会



▲6つの地域協議会がスライドを使って活動を発表

2月28日、市内の各地域協議会が活動内容の発表を行う八代地域協議会情報交換会が太田郷公民館で行われ、約170人が参加しました。

これは地域協議会間の連携を強化し、地域のまちづくりにつなげることを目的に開催されたもので、東町や八千把など6つの地域協議会が発表を行いました。

植柳校区住民自治協議会の発表では、災害に強いまちづくりを目指して実施した「自主防災マップ事業」について報告が行われ、具体的な作業などについての質問がありました。

図書と書架を寄附



▲「本をたくさん読んで立派な大人になってください」と話す竹田裕一さん

金剛小学校弥次分校の卒業生である竹田裕一さんが、昨年末、母校に児童用図書202冊と書架1台を寄附したことに伴い、2月18日、今坂孝広校長や全校児童など約70人が参加して同校で贈呈式が行われました。

竹田さんの「母校に恩返しをしたい」「子どもたちに本をたくさん読んでもらいたい」との思いから寄附に至りました。

贈呈式では、3年の高坂藍梨さんが「いただいた本を大切に、たくさん読みます」とお礼の言葉を述べました。また、児童たちは歌やリコーダーによる演奏で感謝の気持ちを表現しました。

八代オープンラージボール卓球大会



▲鋭いスマッシュを決める選手

八代オープンラージボール卓球大会が、3月7日・8日の2日間、市総合体育館で行われました。茨城県や愛知県、西日本各地から60歳以上の男女110チーム、約400人が参加し、個人戦と団体戦で熱い戦いを繰り広げました。

開会式では、歌手の八代亜紀さんも応援に駆けつけ、「思いきりやりましょう。皆さん頑張ってください」と選手を激励しました。八代さんと中村市長による始球式で試合が開始。真剣な表情でボールを打ち返す選手の姿が見られ、「ナイスボール」「よっしゃー」など気合いが入った掛け声も飛び交っていました。

全国赤ちゃんハイハイ大会on the畳



▲元気良くハイハイ

3月7日、イオン八代ショッピングセンターで「第3回全国赤ちゃんハイハイ大会ON THE 畳」が開催され、市内外の赤ちゃん71人が畳の上をハイハイしました。

出場者は歩き出す前の1歳未満の赤ちゃん。制限時間2分で4m先のゴールを目指します。お父さんやお母さんが玩具などで赤ちゃんの気を引きゴールへ導きますが、微動だにしない赤ちゃんもいれば、食べ物に手が届かず泣き出す赤ちゃんもいました。揚町から参加した森川彩さん(朝博くん)は「日々成長する息子とイベントに参加できて楽しかった」と笑顔で語りました。

八代市善行児童生徒表彰式



▲受賞した生徒の皆さん

3月3日、八代市善行児童生徒表彰式が厚生会館で行われ、市内中学校の7個人と2団体が表彰を受けました。

これは、社会奉仕活動や人命救助など、模範となる活動を自主的に行った市内小中学校の児童生徒を表彰するものです。

毎日のあいさつ運動と学校周辺のごみ拾いを継続的に行っている第六中学校男子バスケットボール部代表の宮永蓮くんと、同中学校女子バレーボール部代表の田上うららさんは「あいさつを交わすことで、一日気持ちよく過ごせます。これからも継続していきたい」と話しました。